

銘柄分析レポート：四季報春号の注目銘柄

1 はじめに

3月17日（木）の夕方、定期購読している会社四季報春号が届きました。

早速、通読にかかります。1銘柄に要する時間はほんの数秒です。PERなどを参考に、直感で割安と思われる銘柄に付せんを貼っていきます。

3月21日（月祝）に開催する大阪セミナーで、会社四季報春号に対する質問が出ることを考慮して、セミナーの準備を進めつつ、前日の3月20日までに読了しました。

実質的に3日で通読を終え、私にしてはかなりのハイペースでした。ゆっくり読めば、10日あまり掛かることもあるからです。

21日のセミナー終了後は、続いて音声CDの編集作業に入ります。24日にセミナーCDが完成し、翌25日より四季報春号からの銘柄選びを再開しました。

まずは四季報で付せんを貼った銘柄をエクセルに入力します。時価総額、PER、PBR、配当利回りは四季報の数字をそのまま用います。今回は189銘柄でした。

次にその中から、10銘柄程度を目安に、有望と思われる投資先を絞り込んでいきます。この段階では、決算短信や決算説明会資料を参考にすることが多いです。

さらに3～4社を抜き出して、過去10年分のPL、過去2年分のBS、過去5年分のCFをエクセルにまとめます。いわゆる定量分析です。たとえPLが良好でも、BSやCFに何らかの問題を抱えている会社は、候補から除外します。

最終的にこのレポートに掲載されるか否かは、ビジネスモデルや成長戦略などの定性面で決定されます。自分なりにビジネスモデルや成長戦略の解説ができて、読んでいる方に「この会社、面白そうだな」とか「この成長戦略には無理があるな」とか、何らかの気づきや学びを得てもらえるようなレポートが理想です。

このような経緯を経て、会社四季報春号から投資先として注目に値する2銘柄を選び出し、今回の銘柄分析レポートが出来上がりました。前置きはほどほどにして、次ページより本題に移りましょう。